

第 2 回中原区区民会議への意見・提案について

「区民会議だより」などを通じて、会議の検討テーマである「放置自転車問題」に関して、意見などを募集したところ、次のとおりメールや区役所窓口などで区民の方々からご意見やご提案をいただきました。

- 「区民会議への提案 ～テーマ：自転車と共生する社会～」(詳細は、別紙参照)
(中原区木月大町在住 男性)

- 中原区役所窓口においていただいた放置自転車問題についてのご意見
 - ・ 「駅周辺に自転車置き場が無いのだから、歩くということをもっと積極的に PR していくべきだ」(中原区在住 男性)
 - ・ 「駐輪場を作るのは勿論、撤去活動だって税金が掛かっているのだから、これ以上余計な出費を重ねる必要は無い。発想の転換をして、学校教育の一環で啓発するとか、地域活動で常に話題にするなど区全体で工夫をすべき」
(中原区在住 男性)

<区民会議への提案> テーマ：自転車と共生する社会

現在の自転車利用者のマナーの低下を嘆き、原因や対処を検討する時に思い出しながら考えたい。家庭教育、社会教育、核家族化、お金至上主義化、政治の貧困、・・・多々の価値観の変動があります。すべてが連動して社会は成り立っています。その結果が現実なのですが・・・。

昭和45年8月02日。この日が戦後日本の交通常識を変革したきっかけの日ではないかと思っています。それは、日本における「歩行者天国」開始の日です。

「人は右、車は左」という戦後の教育や通達が徹底し守られていた時代、車社会となっても Driver は教習所で学び守って運転しています。守らないと事故に遭い自分の命が惜しいからでしょう。

ところが、自転車の運転者は、昔は左交通を自然と身につけました。軽車両という規定を知らなくても守っていました。それは、歩行者が右側通行していたことも大きな理由でしょう。ところが、歩行者天国が広まり浸透してくると、すべての道路が「歩行者天国」の感覚になり、右左を考えないで堂々と歩き交通マナーが低下して行きました。現在40歳以下の区民には「人は右、車は左」という標語がなく、教える親も少なくなっていると思われまます。特に、母親の権力が強くなっている現在の社会では、その母親が率先して交通マナーを守れば、それが家庭→町⇒区と拡大すると思われまます。小生はNPOのボランティアとして放置自転車整理活動のお手伝いをさせて頂いています。その現場でも、また、Event の交通整理手伝い時でも感じるのですが、ご婦人と若者のマナーの悪さが目立ちます。また、お子様を連れていたり乗せている場合でも信号の無視や斜め横断など危険を平気で運転しています。若者は禁止区域への放置、私企業の駐輪場への放置を平気でしています。注意すると「注意の前に駐輪場を造れ！」など暴言を吐きますが、どうやらこれは現代流では暴言ではなく権利の主張と理解するらしい。小生ではとても理解できない論法です。これらも家庭教育の欠落と考えたい。「歩行者天国」という一つの素晴らしい自由の謳歌策も Total の施策を忘れると長期間の内に曲がった価値観の礎となるということです。現在自転車は地域社会において必需品です。地方では車と言いますが中原区では、特に家庭婦人や移動に必需品です。小生も活用しており私的な有料駐輪場と契約しています。もう、5年位になります。一度大病をして入院した時も継続契約しました。一度解約するといつ再契約できるか不安な為です。かと言って、違法駐輪や放置する度胸はありません。社会の約束は守りたいからです。現在、武蔵小杉駅周辺でも多くの違法駐輪があります。

今回の法律改正に関しては、順守出来る方法が未整備のまま施行され、また内容を徹底・浸透させる期間がありませんでした。従って、原点からの浸透策をまず実施することが必要です。特に危険運転とされる「乗車・走行中の携帯通信」「乗車・走行中のヘッドフォン使用」「無灯運転」「複数人乗車」の禁止及び「左側通行順守」「雨天時の片腕運転禁止」に関する啓蒙とパトロールが必要と考えまます。小学校の通学路に立つ「緑のおじさん・おばさん」の様な活動で対応できると思ひまます。権力で徹底させるのではなく権力側は資料の提供に徹し、民間人を研修し修了者にこの任務を委託する。ボランティア活動で行う・・・と考えまます。

更に、啓蒙対象となる改正法律の内容の資料を町会組織を使って「各戸配布」なり「回覧」で徹底させることです。掲示板での連絡では不足です。あれは、「通知する責任は果たした。見ないのは本人の責任」という無責任な逃げの論理です。またはそれくらいの必要性の低いかつ小さな話題という扱いです。見ても見なくても良い情報と徹底しなければいけない情報の扱いを明確にして扱ひましよう。

この他にソフトとハードの両面から2件の提案をさせていただきます。

(1) 自転車交通教育の実施（出席記録を取る）

対象：ご婦人(*)—母子手帳を交付した時：ご自分の安全と乳幼児同乗の安全、

出産2~3年後：お子様が運転する可能性が出てきた時

（初回は上記+現在の主婦全員・夫の代理出席を認める）

小学生— 1年生入学時（本人の為）、

4年生になる時（上級生として下級生の手本となる為）

中学生— 1年生入学時（他の小学校卒業者と価値観を合わせる為）

3年生卒業時（社会に出る為の教育の一環。自己の行動と社会への責任）

高校生— 3年生卒業時（社会に出る為の教育の一環。自己の行動と社会への責任）

主催：警察活動、交通安全協会活動、町会活動が連動する。

注意：組織に名誉職を設けない。実務活動が出来ること。

公的施設を使うことで予算は最低化できる。要員は主催側で捻出しボランティアでも良い。

(*)家庭内の浸透は、母親が身につけたり話題の中心になる方が、効果が大きい為

(2) 駐輪場の増強

江戸川区が葛西駅前に設置した地下式立体駐輪場の事業を一例として検討されたい。地下に円柱状の自動有料駐輪施設を15基以上設置し約5000台分確保したと聞く。地表は駅前公園(?)。

まず、駐輪場利用の想定計画を策定すること。現在の違法駐輪台数は基準であり、潜在車両が現在も多々あり小杉地区では再開発の結果として近間の移動が自転車で行われると想定し算出する必要がある。高層マンションの住人も荷物を持つ移動には自転車を使うでしょう。その分も必要です。

人の流れを再度シミュレーションしてみましょう。

また、商店街の利用者が店頭に置いたまま買い物をしています。銀行もそうです。賑わっている店頭には十分な駐輪場がありません。私企業は営業活動への基盤投資をしないで収益を得ているとも言えます。これらは、公的な駐輪場計画とは別に行政指導を強化するべきだと思います。渋谷のセンター街では私的パトロール隊がお客様・観光客への注意とともに同業・商店に対して道路へのはみ出し展示などを注意し、歩きやすい街並みに改革しています。自らの行動に厳しくするのはつらいし言いにくいことですが商店街にもそれなりの更なる努力をお願いしたいものです。整理不良が原因で人身事故に繋がったらどうするのでしょうか？行政の整備不足として責任転嫁するのでしょうか？

自治って何でしょう？そろそろ、自分たちの手で、責任で、街作りを本格的にする時期になりましたね。税金を払っているのだから後は行政の怠慢・責任だ、と逃げるのは簡単です。でも、すべてが税金で出来るのでしょうか？有効活用するにはSoft面での住民の協力が必須です。無責任な行動が過剰な予算を必要とさせています。自治とはまず自らの手で行動することであることを再度学びましょう。置く場所がない所に自分の便利さの為に車両を持って来ない、ことを常識にしたいです。

「自由という野原には責任という柵がある」・・・大切にしたい言葉です。

区民会議にご参考になれば幸甚に存じます。

以上